

1 単元（題材）名 Our Project4～おすすめの旅行先をプレゼンしよう～

2 単元（題材）設定の背景

教材観

本単元では、旅行会社のプレゼンターになったという設定で、7年生に対して、おすすめの旅行先（外国）を紹介する活動を行う。既習の Program3 では、登場人物が日本の屋台料理と外国の屋台料理について会話をしたり紹介をしたりする文を読み、それをもとに祭りで出店するならどのような屋台が良いか各自で考え、クラスメイトにプレゼンを行った。前単元までの活動や学習内容を生かし、本単元では、国を紹介する活動を通して、その国の文化や歴史に対する理解を深め、よりよいプレゼンの方法を学ぶことができると考えられる。

生徒観

本学級の生徒は、授業において英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。6月に実施した授業評価アンケートでは、日常でのコミュニケーションにおいて、相手の話をしっかり聞く姿勢を示すためにアイコンタクトや相槌を打つこと、相手の気持ちを考えて接すること、話を最後まで聞くことなど、安心して話ができる雰囲気づくりを意識していることが分かった。また、これらを英語の授業でも意識しているかという設問に対して、9割以上が肯定的に回答し、母語と同じように相手を意識したコミュニケーションを図ろうとしていることが分かる。しかし、英語でのコミュニケーションにおいて、単語、表現、文法の知識不足や、発音に対する不安、会話の切り替えや終わり方に対する戸惑いがあることが分かった。母語と同じようにコミュニケーションを取ろうという意欲はあるが、既習事項の活用能力に課題があると考えられる。

集団観

本学級の生徒は、積極的に英語でコミュニケーションを取っている。また、分からないことについて自身で調べたり、ペアやグループで互いに聞き合ったりして、自身の課題を解決していこうとしている。一方で、全体の場で自らの意見を発表する生徒は限られており、クラス全体で互いの知識や技能の向上のために全体で意見を交流していこうという意識は低いと考えられる。

指導観

既習事項を用いて英語で自身の考えや気持ちを伝えることに課題があることから、他者のコミュニケーションに対する考えなどを踏まえ、自らのコミュニケーションを調整させるために、次の2点を重点的に実施する。①1つの話題に関して、日本語と英語でやり取りを行うことで、日本語ではできるが英語ではできない、コミュニケーションを豊かにする方法や表現を考えさせる。それらの考えを全体で共有し、リスト化することで、以降の英語でのコミュニケーションに生かすことができるようにする。②生徒が表現やその表現の意図などについて理解を深められるよう、教師から全体へ問い返す。

3 単元（題材）の目標及び計画（全10時間）

■単元（題材）の目標

おすすめの国に関して、聞き手である7年生に「行きたい」と思ってもらえるようなプレゼンテーションをすることができる。

■単元（題材）の計画

第1次 単元の見通しをもち、紹介したい国を設定する・・・・・・・・・・2時間

第2次 紹介したい国について調べプレゼンテーションの原稿を作成する・・・・・・・・4時間（本時2/3）

第3次 聞き手に「行きたい」と思ってもらえるようなプレゼンテーションをする・・・4時間（本時2/4）

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おすすめの国について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	聞き手に「行きたい」と思ってもらえるように、おすすめの国について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	聞き手に「行きたい」と思ってもらえるように、おすすめの国について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。

5 本時の学習

■目標 聞き手に伝えたいことを理解してもらえるように、必要な表現や態度を身につけようとしている。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

自らのコミュニケーションに関して多角的に振り返り、目的や相手に合わせて関わり方を考え、そこに必要な英語表現や態度を身につけようとしている。

■学習過程 ※(全)(小)(個):学習形態(全:全体の場合 小:小集団 個:個人)㊟:留意点 ㊞:評価の観点(方法)

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 2 min chat を行う。	(1) 英語でコミュニケーションをとろうとする雰囲気を作る。 ・話題に関してその考えをいくらか共有し、話題に対する考えを持ちやすくする。 ・会話を続けるための表現を使用するよう促す。	(全) 英語の授業は安心して失敗できる雰囲気を作ることを意識する。
2. 学習課題の設定	(2) 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">自分の選んだ屋台料理について、7年生に興味を持ってもらうためにすべきことを考えよう。</div>	(2) 前時に確認した内容を基に、課題を設定する。 ・前時に取り組んだプレゼンを想起させ、その目的に沿ってすべきことを考えさせる。	(全) 自分たちの課題から全体の課題を設定する。
3. 学習課題の追求 (プレゼンテーションの実施)  (プレゼンテーションの振り返り)	(3) プレゼンテーションを英語で行う。 ・プレゼンにおける役割(司会・発表・サポーター・聞き手)をグループ内で決める。 ・一方のグループが発表、もう一方が聞き手になり、時間が来たら交代する。 (4) プレゼンテーションから、プレゼンで大切なことを考える。 ・司会: ・質問を促す。 ・聞き手を注目させる。 ・発表: ・アイコンタクトをとる(聞き手を見る。) ・ハキハキした言葉を伝える。 ・相手の理解を確認する。 ・サポーター: ・質問に答える。 ・発表の補足をする。 ・聞き手: ・わからないことは質問する。 ・リアクションをする。	(3) プレゼンを実施する中で、それぞれの役割の生徒がすべきことを考えるよう伝える。また、プレゼン内で咄嗟に使用した日本語に関して、それは英語で伝えたいことであることを踏まえ、後の発表に生かすよう伝える。 (4) (3) で実施し感じたことを基に、プレゼンにおいてすべきことを考えさせる。 ・各グループの考えを全体で交流できるよう、それぞれの考えを Google スプレッドシートに記入させる。 ・他グループの記述を参考に、プレゼンですべきことについて全体で共有する。 ・全体で共有した考えに関して、すべきだと思う理由について考えさせる。 留生徒から出た考えを深められるよう、その理由や込められた気持ちを問う。	(小) 生徒から気づきを得られるように促す。  (小) → (全) 各自が考えたことを全体で共有し、多様な考えがあることに触れる。その中にある子供の言葉から、新たな気づきを促す。
4. 本時のまとめと次時への発展	(5) 本時のねらいから活動を振り返り、次時につなげる。 ・発表をする時に相手の方を見ること普段から意識していたけど、その方が相手の心に伝えやすいと気づいた。自分たちが伝えたいことが伝わるように、まずは相手をしっかり見れるように意識したい。	(5) 本時の振り返りから、プレゼンで意識したいことを考えさせる。 ・自身のプレゼンを想起させ、特に取り組むべきことを考えさせる。 留聞き手に理解してもらうために必要な表現や態度を実践しようとしているか。(振り返りシート)	(個) 本時で得た気づきを以後の学習に活かさせる。

